

- ◆ 高知財務事務所所管の国家公務員宿舎・合同宿舎**秦住宅**(以下「**同住宅**」)は、平成24年1月より高知市から**津波避難ビル**として指定を受けている。
- ◆ こうした中、当所は、地元町内会(秦南町1丁目町内会及び秦南町2丁目町内会)からの要望を受け、**同住宅自治会及び地元町内会による合同避難訓練を実施**(28年2月20日、**当所管内の合同宿舎では初**)。
- ◆ 当該避難訓練では、参加者自身の足による避難経路・避難場所の確認、同住宅に常備されている防災備品の説明、ゴムボートの組立てなどにより、**参加者の防災意識、地域の連帯感を高める**ことに寄与。
- ◆ また、当該避難訓練を**各年代層の地域住民の参加が見込める土曜日に実施**したことや、当該避難訓練が同市「防災情報」(フェイスブック)に掲載されたことにより、**同住宅の津波避難ビルとしての認知度も向上**。

1. 成果事例の概要等

- 高知市は、近い将来南海トラフ巨大地震による津波発生が想定されることから、高知財務事務所所管の国家公務員宿舎・合同宿舎**秦住宅**(以下「**同住宅**」)を平成24年1月より津波避難ビルとして指定している。
- **同住宅は、万一津波による浸水が発生した場合、地域住民の一時避難場所として利用することができる**ほか、同市が常備している防災備品(簡易トイレ、ゴムボート等)の保管場所、地元町内会(秦南町1丁目町内会)の防災倉庫設置場所としても提供されている。
- 一方で、同住宅は、津波避難ビル指定以後、避難訓練が未実施であったことから、当所が、避難訓練実施について、地元町内会と意見交換したところ、地元町内会より「津波避難ビルに指定されていることは承知していたが、具体的な避難経路、避難場所がわからないので、是非、避難訓練を実施してほしい。」との要望を受けた(27年11月)。
- **当所では**、当該要望を受け、各年代層からの参加を見込むために訓練日を土曜日とし、**同住宅自治会及び地元町内会と合同で地震発生に伴う津波の発生を想定した避難訓練を28年2月20日に実施(参加者45名)**。
- 当所は、参加者が当該訓練でより実体感、連帯感を味わってもらえるよう、同住宅1・2号棟に常備されている防災備品の説明やゴムボートの組立てなどを企画。
- また、参加者の防災意識や救命知識の向上を図るため、同市及び同市内の消防署による津波避難対策の講話や応急手当方法の実演なども併せて企画。



防災備品の説明

避難場所を地域住民に周知することで、「身近にあるんだ。」という意識を植え付けられ、安心感を与えられたのでは！

2. これまでの取組の成果等

- 避難訓練実施日を土曜日にしたこともあり、強い雨にも関わらず、小学生から年配者までの幅広い層が参加(地域活動の中心となる中高年の参加割合が高かった)。
- 当所は、今回が初の避難訓練ということもあり、当所職員を訓練場所の要所に配置し、円滑な避難訓練の実施に努めたことから、参加者より「参加しやすく、情報を広く住民に伝えたい。」との声をいただくことができた。
- 当該避難訓練により、**参加者(地域住民)に、身近に避難場所が存在すると認識してもらうことで、同住宅の津波避難ビルとしての認知度向上につながった**ほか、**防災備品の取扱説明や組立てなどを行うことで、防災備品の使用方法等の理解も深める**こともできた。
- また、地元町内会の担当者から今後も継続して合同で避難訓練を実施することについて快諾を得るなど、当所と地域住民との**信頼関係構築にもつながった**。
- 訓練実施の際には、四国財務局のパンフレット(「四国財務局のご案内」)や国有財産関係パンフレットなどを参加者に配付。

応急手当実演



避難訓練終了後のアンケートにおいて、多くの方々から「是非、次回も開催してほしい。必ず参加します。」との声。



ゴムボート組立て

3. 今後の課題と高知財務事務所の対応

＜今後の課題＞

- 今後は、若年層の参加が見込めるような訓練内容の充実を検討する必要がある。

＜今後の高知財務事務所の対応＞

- 当所職員等の誘導がなくても、円滑に避難できるように繰り返し訓練を実施すること及び訓練内容がマンネリ化しないように工夫をこらし、訓練参加者の増加を目指したい。

- 訓練内容は、地域住民からも広く意見を聞き、充実した避難訓練となるよう努め、更に一歩進んだ地域住民との連携を目指していきたい。